

小平市制施行50周年を記念して 「小平大好き」市民がつくった 「こだいらふるさと冊子」



配布は小平市内の公民館
で(無料)。
問い合わせは ☎042
(341) 0861
中央公民館 川口・萩元

小平市中央公民館がこの春募集したパソコン講座コース「こだいらふるさと冊子編集プロジェクト」に応募した市民9名の手による冊子がこのほど発行された。A4判44ページからなる冊子は小平市のプロフィールから始まり、写真で見せる「若かった頃の小平」、そしてインタビューした21人のいきいきとした顔写真が一堂に並ぶ。

本文は「こだいらを語る」「まなぶ場所」「おいしい」など7つの項目に分けられ、小平在住の多彩な人々が過去、現在、そして未来につながる小平を生活者目線で語っている。小平ならではの農業や緑地、糶うどん、ボランティア活動の人々に加えて、街中で何十年も地道に続けてきた食堂や惣菜店の主人、コミュニティ作りにも励んでいるカフェオーナーにもスポットが当てられている。見出しや写真にも工夫が凝らされ、読み応えいっぱいの一冊だ。

初対面同士の受講者がゼロからスタートして、5月、6月の2ヶ月の講座期間で仕上げの段階まで持っていたことに驚かされる。メンバーは



がっちりスクラムを組んで達成感あふれる皆さん
(取材日は2名欠席、後列右は職員のお二人)

男性2名、女性7名。「40年小平に住んでいるけれど、これまで地元は寝に帰る所で何も知らなかった」という山田うにさんのように、応募のきっかけが「小平のことをもっと知りたい」というメンバーがほとんどだった。

「小平の魅力をひきだし、読んでもらう冊子をつくるためにどういうコンセプト、切り口にすべきか」冊子の内容、レイアウト、タイトルまで皆で議論を重ね、編集経験がある山田さんと小林美鈴さんがまとめ役となった。こうしてメンバーを3人ずつの3チームに分け、インタビュー、撮影、録音と、取材先毎に役割を決め、3人で喫茶店に集まっては作戦会議を開いた。取材は初めてという

メンバーも多く、「取材前日は緊張して眠れなかった」人もいたとか。
「素人だとわかるからこそ、取材協力の方は心を開いてくれたのでは。人を介して、小平のを探り、これまで見えなかった人と人とのつながり、街のよさがわかった」と藤川喜久男さん。

パソコンでの編集作業はNPO法人小平シニアネットワーククラブの専門家が指導。各々スキルが異なるので、自分たちが知りたいことを習い、フォーマットへの原稿の流し込みも多少経験があった矢部敦子さんが孤軍奮闘。「受講者の多才さにびっくり」とメンバーが言うように、抜群のチームワークがスピーディな制作を可能にした。事務局を担当した職員の川口勝さんと萩元直樹さんの冊子への思いと、バックアップもメンバーを強力に後押ししたという。

こうして、一人も中途リタイアすることなく、冊子「やっぱいこだいらが好き」が完成。人との出会いに感動が生まれ、小平を再発見できたメンバーの喜びは大きい。今回は予算の関係で、すべてモノクロ、印刷も市役所内という手作り冊子となったが、「ぜひ第2弾をカラーで」という熱気にあふれる皆さんだった。



小平市制施行 50周年



①昭和37年10月1日市制施行のパレード
小平駅踏切付近



②小平町役場 (S36) 今の仲町公民館の場所
③昭和39年に市庁舎が新築移転 (現・中央公民館) 今の庁舎は S58 年に新築移転。



市役所玄関ロビーに置かれた、
50周年記念ロゴマーク

50年前の小平

小平市はこの10月1日にほのぼののマイタウンエリア5市の先陣を切って、市制施行50周年を迎えた。10月20日にルネこだいらで記念式典が開かれるが、周辺では終日さまざまなイベントが繰り広げられる。他にも3月まで記念イベントが目白押し、まさに今年度はメモリアルイヤーだ。

50周年というのはひとつの通過点に過ぎないかもしれない。しかし市制施行前は近隣の町村合併の話もあったというから、「小平」という名前はずっと踏ん張ってきたのだ。と思うと、このきわめて画数の少ない、シンプルな2文字に一層の愛着が湧いてくる。

昭和37年10月1日の市制施行日は初代の小川市長と大島議長がオープンカーに乗り込み、花自動車の一団が市をパレードした(写真①)。「当時の道路は道の真ん中だけが簡易舗装されたものでした。庁舎も町役場のまま(写真②)、会館もないので、祝賀式典は市内で初めての鉄筋コンクリート造りだった第六小学校で開かれた。昭和35年開校の六小はプリチーストンが寄付した校舎だったんですよ」と語るのは元市役所職員の基太村壽三郎さん。当時の人口は約7万人(現在約18万人)。都下で11番目の市であった。

折しも世の中は高度成長の真っ只中。昭和40年には市の人口は10万人を

【10/20は1日中、ルネこだいらの内も外もあつくなりませす!】

ルネこだいらでのイベント

▼市制施行50周年記念式典

(10時~13時 大ホール)

功労者等表彰、よさこい、鈴木ばやし、小平市ゆかりの大林素子さんの

「ふるさとトークショー」など 要申込

☎042(346)9511 総務課

▼丸ポストフォーラムこだいら

(13時~15時 中ホール)

丸ポスト32本、日本一大きい丸ポストがある小平市。同様に丸ポストでまちおこしに取り組んでいる、宮城県大

崎市、新潟県長岡市、愛知県西尾市の

代表を招き、フォーラムを開催。

要申込 ☎042(346)9581

産業振興課

▼タイムカプセル「10年後の大切な人への手紙」

ルネこだいら前広場(15時30分~17時)

保護者から10年後に成人する子どもへ宛てた手紙をタイムカプセルに入れ、

日本一丸ポストに入れて保管。応募者



日本一丸ポストに入れて保管。応募者



⑥小金井街道 第五小学校付近 (S39) 車はミゼット
⑦青梅街道を行く車、のどかな風景 (S39)



①～⑧の写真提供 小平市立図書館



④花小金井駅 (S42)
⑤小平駅 (S39)



写真は語る・・・

突破し、50年には15万人に増加していった。工場の進出、団地の建設とともに農耕地が縮小され、基太村さんと言う「雑木林の間から短冊型農地が見える田園風景」も変わっていった。人口の流入で、市外通勤者の大部分が東京区部への通勤者となり、市制施行とともに小平市は急速に東京のベッドタウンへと変貌していく。

④、⑤の駅の写真を見ると、今とは隔世の感がするけれど、昭和40年当時でも市内には西武鉄道の新宿線、多摩湖線、国分寺線、上水線(のちに拝島線)が走っていて、駅も7つあった。この交通の便の良さが新住民を引き寄せたといわれる。この半世紀は東京の近郊農村であった小平の地が、インフラの整備とともに生活様式と景観を変え、都市化していく過程の歴史だった。10月6日には市と市民が協働した、

市民のための記念事業として、「みんなで創る『ずっと住みたいまち』小平く」と題するシンポジウムが福祉会館で開催され、半世紀の節目に、市民がこれからのまちづくりについて考え行動するきっかけとなった。

50人が実施(募集は締切)。

▼地域伝統芸能大会

(16時～18時 大ホール)

宮崎県高千穂町から「岩戸神楽」がやってくる!新こだいら音頭発表披露、姉妹都市小平町のおびら太鼓、鈴木ばやし、よさこい等。司会はよしもと若手芸人LILR 入場無料 先着順(入場規制あり) ☎042(346)9532 地域文化課

▼小平をふりかえるくひと・まちものがたり(同時開催) 展示室

10月16日(火)～21日(日) 10時～17時(20日のみ21時まで) 郷土写真展、市の公共交通のあゆみ、50周年記念DVDの上映等 ☎042(346)9814 公共交通担当

小平駅南ロータリーのイベント

▼市民まつり 前夜祭

(16時50分～20時30分)

21日の市民まつりに先立ち、市制施行50周年を市民で祝う前夜祭。駅前ロータリーとあかしあ通りで、吹奏楽、よさこい競演、岩戸神楽、ゆりーとダンス、おびら太鼓、万灯みこし等 地元商店会の出店も。翌日は9時30分より恒例の市民まつり。あかしあ通りで大パレード開催。たくさんの人出で終日賑わいをみせる。☎042(346)9532 地域文化課